

# ず ZOOっと分かりやすく



## 浜松市案内板を来年一新

浜松市動物園が一九八五年に西区館山寺町に移転したころから変わっていない案内板が来年、静岡文化芸術大(中区)の学生団体「ZOO P.I.C」によって一新される。多く来場する子どもや外国人にも分かりやすいデザインにした。代表の三年増田梨沙さん(三)は「いろいろな人たちに動物園を楽しんでもらいたい」と意気込む。(松島京太)

## 静岡文化芸大生デザイン

新しい案内板は、動物展示スペースの場所が一目で分かるように、全二十五種類を設置する。動物が三色のみでかわいらしくシンプルに描かれ、ひらがな表記と英語表記で紹介される。順路についての案内板もデザインし直す。

今の案内板は動物園が浜松城公園から移転した二十三年前に設置されたのみで、順路や動物の居場所が分かりづらい場所がある。などの声が来園者から寄せられていた。園内を見学した増田さんは「文字やイラストが小さすぎて目立たない」と感じた。

活動を始めたのは二〇一六年春。同園と交流を持っていた学生が、園側からの依頼を受けて「ZOO P.I.C」を結成。十人ご三班に分かれ、数々のアイデアを市職員や園の関係者に発表した。

授業と両立しながらの大きな掛かりな作業は試行錯誤の連続。色覚障害のある人でも見やすいイラストにするために、シミュレーションソフトを用いて配色を考え、遠くから見たとときに、細かいイラストや文字がつぶれてしまわないか外での確認も繰り返しした。メンバーの三年乗松咲那さん(三)は、園の動物や写真資料を参考にイラストの原画制作を担当。特に苦労したのはクジャクといい、「複雑な模様をシンプルに表現し直すのが難しかった」と話す。園内で同園でしか飼育されていない小さなザルやゴールテンライオンタマリンも、ふさふさの毛並みを描くのが大変だったという。

高山和也園長補佐(五)は「学生たちには忙しい中、アイデアを出してもらって頭が下がる。これを機に動物園そのものに親しみを持ってもらえれば」と期待を込める。

案内板の取り換え工事は、来年一二月の開始を予定している。先月下旬には、学生たちが実寸大に印刷した紙を園内に持ち込み、設置する位置や周囲との色の兼ね合いなどを、担当者と相談しながら確認した。新しい案内板のデザインは来月の同大の学園祭「碧風祭」でも展示され、一般からの意見を募る。

2018.10.12

中日新聞(夕刊)